



# 『クラウドセキュリティ管理技術者認定』

(JRCA 承認 ISMS-CLS クラウドセキュリティ審査員研修コース併設)

(認定講師・コンサルタント養成コース併設)

JRCA(マネジメントシステム審査員評価登録センター)ISMS-CLS 審査員登録  
 MSQA(マネジメントシステム品質協会)クラウドセキュリティ管理技術者認定  
 MSQA(マネジメントシステム品質協会)クラウドセキュリティリスクコンサルタント認定  
 MSQA(マネジメントシステム品質協会)ISMS クラウドセキュリティコンサルタント認定



認定コース 計3日間(21 時間) + 実践研修3回[実務 OJT](12 時間)

Cloud for LMS 年間利用料無料

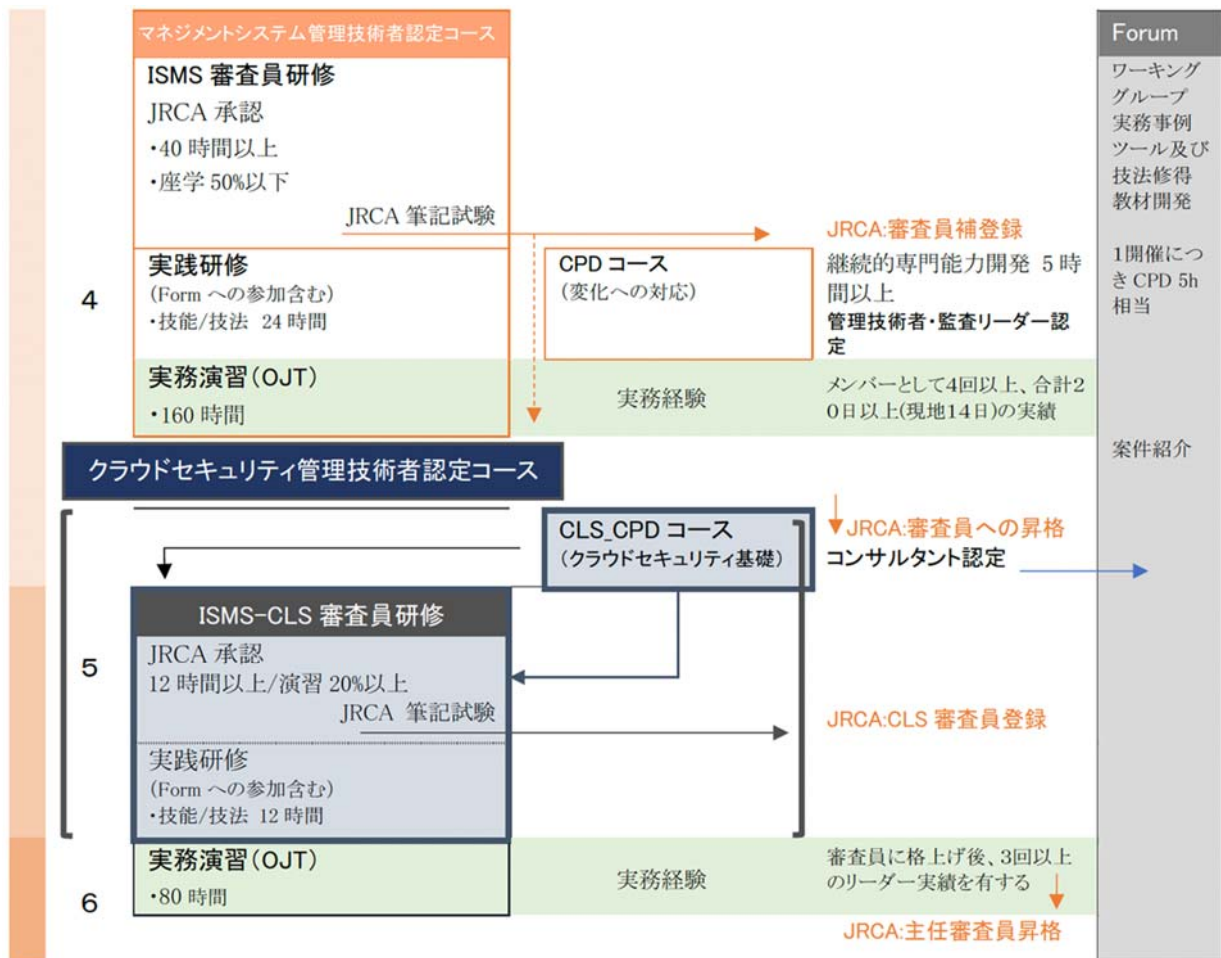
注記:ISMS-CLS 審査員研修は、承認研修機関「なかつ情報通信開発センター」主催

受講条件:ISMS 審査員研修受講もしくは管理技術者認定(養成)コースを受講していることが望ましいがその限りではない。

(ISMS 管理者として運用構築経験を有するなど)



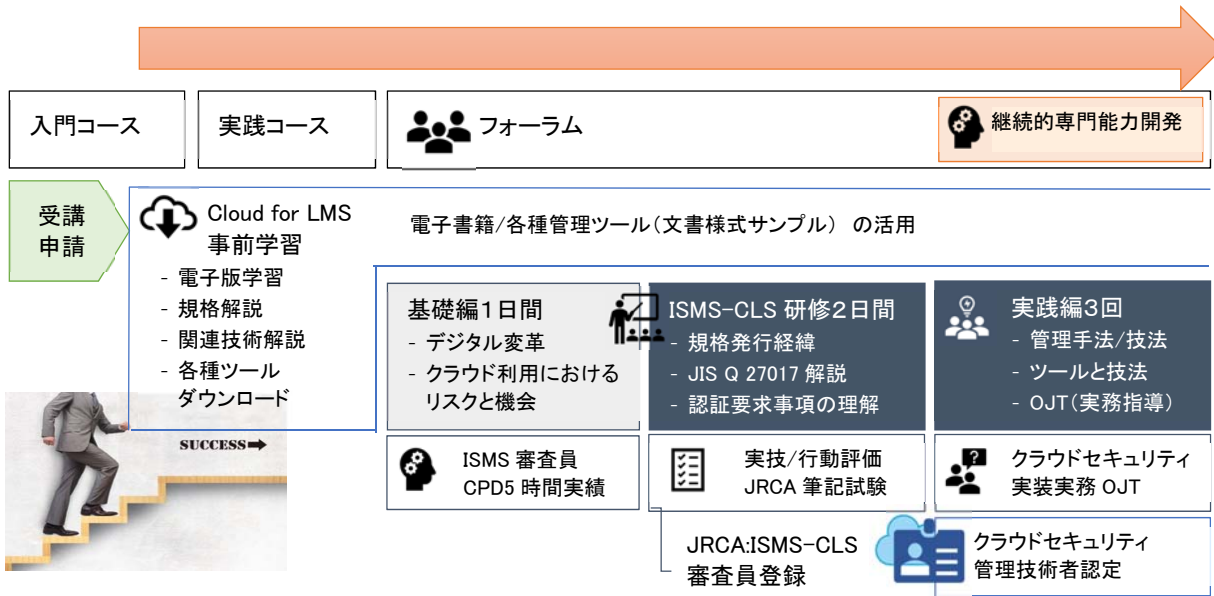
## 研修コース体系



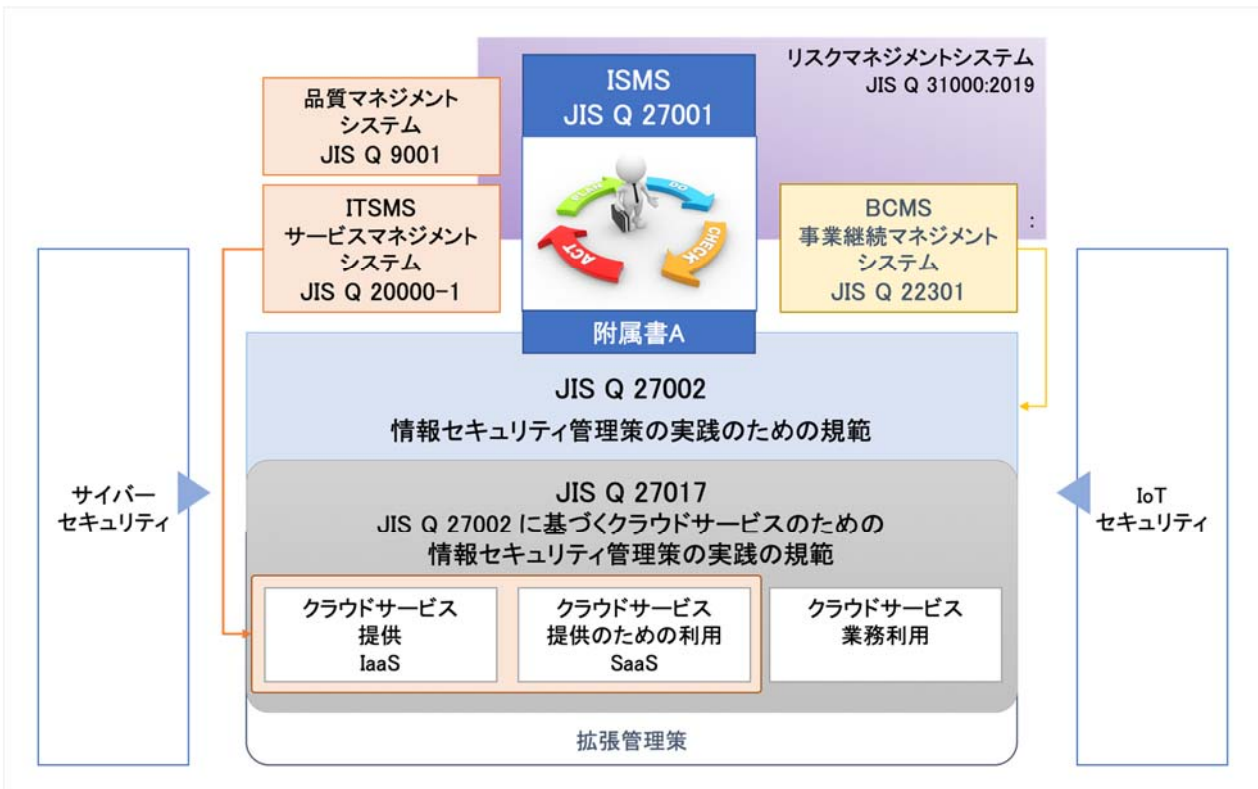


## 研修ロードマップ(クラウドセキュリティ管理技術者認定コース内容)

- リスクマネジメントに基づくクラウド固有のリスク対応について高品質な研修プログラムの提供
- 事例に基づく実践(実務)に重点を置いた即戦力(稼ぐ力)となる人材を育成し、認定する
- 令和元年「明日への希望」次世代型人材/クラウドサービスに基づくセキュリティ人材を育成(審査員・コンサルタント・講師を育成しフリーランスの稼ぐ力を支える)



## 適用規格体系



## クラウドセキュリティ管理技術者研修(基礎編)セッションプラン[レベル4]

Cloud Security Administrator (Continuous professional development[Level 4])

	ITSS+専門分野	Level	説明
経営・運用管理	情報リスクストラテジ Risk strategy	4	自組織/受託先における業務遂行の妨げとなる情報リスクを認識する影響を抑制するための、組織体制の整備や各種ルール整備等を含む情報セキュリティ戦略やポリシーの策定等を推進する 自組織または受託先内の情報セキュリティ対策関連業務全体を俯瞰し、アウトソース等を含むリソース配分の判断・決定を行う
	情報セキュリティ アドミニストレーション Security administration	4	情報セキュリティ戦略やポリシーを具体的な計画や手順に落とし込む対策の立案や実施(指示・統括)、その見直し等を通じて、自組織または受託先における情報セキュリティ対策の具体化や実施を統括する 利用者に対する情報セキュリティ啓発や教育の計画を立案・推進する
	情報セキュリティ アナリシス Security analysis	4	情報セキュリティ対策の現状に関するアセスメントを実施 あるべき姿とのギャップ分析をもとにリスクを評価する 自組織・受託先の事業計画に合わせて導入すべきソリューション検討 導入されたソリューションの有効性を確認し、改善計画に反映する
	脆弱性診断 Vulnerability assessment	4	ネットワーク、OS、ミドルウェア、アプリケーションがセキュアプログラミングされているかどうかの検査を行い、診断結果の評価を行う。
監査	情報セキュリティ監査 Security audit	4	情報セキュリティに係るリスクのマネジメントが効果的に実施されるよう、リスクアセスメントに基づく適切な管理策整備、運用状況について、基準に従って検証又は評価し、もって保証を与えあるいは助言を行う。

## 教材:クラウドセキュリティ基礎編

第1章	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 変化の波に乗るために</li> <li>2. リスクマネジメントプロセスを適用する</li> <li>3. 変化を捉えるー GAPD</li> <li>4. リスクと機会に対処する</li> <li>5. クラウド利用における課題</li> <li>6. JIS Q 27017 発行の経緯</li> </ol>	参考:急速な技術革新と産業構造の変化 参考:デジタルファースト 参考:政府機関・自治体の対応 参考:サービス品質とクラウド 参考:働き方改革(テレワークとクラウド) 基礎コース:演習「クラウド利用における事象」
第2章	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クラウドコンピューティング用途と定義</li> <li>2. 供給者関係(ICT サプライチェーン)</li> <li>3. サービス構造よりリスクを特定する</li> <li>4. 役割及び責任 ISMS5.2/A.6.1.1 と責任分界</li> <li>5. 仮想化技術(代表的な技術とリスク)</li> <li>6. 拡張された管理目的及び管理策</li> </ol>	参考:ENISA2009 R2.ガバナンスの喪失 参考:..CLD.6.3 カスタマとプロバイダとの関係 参考:..CLD.9.5.2 仮想マシンの要基化基礎コース:演習 「クラウド固有のリスクと管理策の抽出」 「サービスとプロセスの特定」
第3章	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ISMS と JIS Q 27017 の関係</li> <li>2. クラウドセキュリティ認証要求事項</li> <li>3. 適用範囲の考え方</li> <li>4. リスク対応と適用宣言書の拡張について</li> <li>5. 内部監査をどのように適用するか</li> <li>6. クラウドセキュリティ審査員</li> </ol>	参考:タレントマネジメント 参考:引用文献 基礎コース:演習 「適用範囲を考える」 「利用しているサービスと監査」

## Session Plan

Time Table	分	種別	内容	教材
9:30 - 11:00	90	座学	外部環境の変化とクラウドセキュリティ	第1章
11:10 - 12:00	50	演習	クラウド利用で発生している事象と管理策	演習資料 WS01
13:00 - 14:00	60	演習	クラウド固有のリスク	第2章
14:10 - 15:10	60	演習	クラウド固有のリスクと管理策の抽出」 (サービスとプロセスの特定)	演習資料 WS02
15:20 - 16:00	40	座学	クラウドセキュリティ認証と JIS Q 27017	第3章
16:10 - 16:40	30	試験	レベル4 力量評価テスト	
16:40 - 17:00	20	総括	総括及び質疑応答	



# クラウドセキュリティ管理技術者研修 (ISMS-CLS 編) セッションプラン [レベル 5]

## Cloud Security Administrator [Level 5]

教材:クラウドセキュリティ管理技術ガイド

CLS 第1章	ISO/IEC 27017(JIS Q 27017) 制定の背景及び経緯
	1.1 ISO/IEC 27017 制定 1.2 ISO/IEC 27017 に基づく ISMS クラウドセキュリティ認証について (参考)クラウドサービス利用のための情報セキュリティマネジメントガイドライン -経産省 第1章 復習問題
CLS 第2章	JIS Q 27017 の概要及び用語の定義
	2.1 ISO/IEC 27000 ファミリー規格の現状 2.2 JIS Q 27017 と JIS Q 27001 (ISMS 要求事項)との関係 2.3 JIS Q 27017 と JIS Q 27002 との関係 2.4 JIS X 9401:206 クラウドコンピューティング用語・定義解説 (1) クラウドコンピューティング及びクラウドサービス (2) クラウドコンピューティングのロール及びアクティビティ (3) クラウドサービスカスタマデータ・クラウドサービス派生データ (4) テナント・マルチテナンシ (5) クラウド能力型 (6) クラウドサービス区分 (7) クラウド配置モデル (8) クラウドコンピューティングの横断的特性 (9) ISO/IEC 17789:2014 の用語及び定義 第2章 復習問題
CLS 第3章	クラウドサービスの特性と技術的背景 - クラウド固有のセキュリティの必要性
	3.1 オンプレミスとクラウドサービス利用 3.2 責任分界とリスクマネジメント 3.3 クラウドコンピューティングを支える主な技術 3.4 クラウドサービスの論理構造 3.5 クラウドシステムの構成 3.6 クラウドサービス固有のリスク 経済産業省:「クラウドサービスにおけるリスクと管理策に関する有識者による検討結果 2011 年度版」 ENISA2009:クラウドコンピューティング情報セキュリティに関わる利点、リスク及び推奨事項 第3章 復習問題
CLS 第4章	JIS Q 27017:2016 規格解説
	4.1 本書の構成について 4.2 JIS Q 27017 の箇条の構成 4.3 クラウド固有の概念 - 概要 4.4 クラウドサービスにおける供給者関係 4.5 カスタマとプロバイダとの関係 4.6 クラウドサービスにおける情報セキュリティリスクの管理 4.7 JIS Q 27017:2016 附属書 A(規定)クラウドサービス拡張管理策解説 4.8 JIS Q 27017:2016 本文「実施の手引き」解説 第5章 復習問題
CLS 第5章	ISMS クラウドセキュリティ認証とその実務
	5.1 ISMS クラウドセキュリティ認証制度 5.2 アドオン認証について 5.3 認証審査の対象 5.4 ISMS クラウドセキュリティ認証の枠組み 5.5 ISMS クラウドセキュリティ認証に関する要求事項 5.5 ISMS クラウドセキュリティ構築 第5章 復習問題



## Session Plan

9:00 ~ 9:15	15	オリエンテーション	
9:15 ~ 10:30	45	第1章	ISO/IEC 27017 (JIS Q 27017) 制定の背景及び経緯 1.3 ISO/IEC 27017 制定 1.4 ISO/IEC 27017 に基づく ISMS クラウドセキュリティ認証について (参考)クラウドサービス利用のための情報セキュリティマネジメントガイドライン
10:40 ~ 12:00	80	第2章	JIS Q 27017 の概要及び用語の定義 2.1 ISO/IEC 27000 ファミリー規格の現状 2.2 JIS Q 27017 と JIS Q 27001 (ISMS 要求事項) との関係 2.3 JIS Q 27017 と JIS Q 27002 との関係 2.4 JIS X 9401:206 クラウドコンピューティング用語・定義解説
12:45 ~ 13:00	15		個人演習: 第2章復習問題
13:00 ~ 13:45	45	第3章	クラウドサービスの特性と技術的背景 クラウド固有のセキュリティの必要性 3.1 オンプレミスとクラウドサービス利用 3.2 責任分界とリスクマネジメント 3.3 クラウドコンピューティングを支える主な技術 3.4 クラウドサービスの論理構造 3.5 クラウドシステムの構成 3.6 クラウドサービス固有のリスク
14:00 ~ 14:30	30		第3章復習問題(グループ演習)
14:45 ~ 15:30	45	第4章	JIS Q 27001:2014 の附属書 A との関連 JIS Q 27017 の箇条の構成 クラウド固有の概念
15:45 ~ 17:15	90		4.7 クラウドサービス拡張管理策 CLD 6.3.1 クラウドコンピューティング環境における役割及び責任の共有及び分担 CLD 8.1.5 クラウドサービスカスタマの資産の除去 CLD 9.5.1 仮想コンピューティング環境における分離 CLD 9.5.2 仮想マシンの要塞化 CLD 12.1.5 実務管理者の運用のセキュリティ CLD 12.4.5 クラウドサービスの監視 CLD 13.1.4 仮想及び物理ネットワークのセキュリティ管理の整合
17:30 ~ 18:00	30	総括・質疑応答	

9:00 ~ 9:15	15	オリエンテーション	
9:15 ~ 11:15	120	第4章	4.8 JIS Q 27017:2016 本文「実施の手引き」解説 第4章復習問題(グループ演習)
11:30 ~ 12:00 12:45 ~ 13:45	30 60	第5章	ISMS クラウドセキュリティ認証とその実務 5.1 ISMS クラウドセキュリティ認証制度 5.2 アドオン認証について 5.3 認証審査の対象 5.4 ISMS クラウドセキュリティ認証の枠組み 5.5 ISMS クラウドセキュリティ認証に関する要求事項 5.5 ISMS クラウドセキュリティ構築
14:00 ~ 14:30	30		第5章復習問題(グループ演習)
14:45 ~ 16:00	105	グループ演習	
16:00 ~ 17:00	60	総括・質疑応答	
17:00 ~ 18:00	60	JRCA 筆記試験(50分)	







## 受講料

種別	クラウドセキュリティ 管理技術者認定	基礎編のみ CPD5時間	実践研修コースのみ ISMS-CLS+実践	Cloud for LMS 年間利用料
一般	150,000 円	25,000 円	125,000 円	11,760 円 (月額 980 円)
会員	135,000 円	22,500 円	112,500 円	会費に含む

- 受講料は開催日迄に主催者(共催者)所定の方法でお支払いください。(上記受講料には別途消費税が加算されます)
- 受講料納付時点から事前学習を目的に Cloud for LMS の受講者専用サイト及びすべてのコンテンツ利用が可能です。
- クラウドセキュリティ構築・運用管理を目的として企業内研修(講師派遣)による開催も可能です。  
(主催者にお問い合わせください)
- ISMS-CLS 研修コース2日間は JRCA 承認 ISMS-CLS 審査員研修コースとなり、最終日に JRCA 筆記試験が実施されます
- 研修コース受講料に JRCA 筆記試験受験料を含みます。
- 研修コースには以下の教材費を含みます

管理技術教本	実践演習教材	ポケットガイド	便利な補助資料	Cloud for LMS
A4 カラー200P	A4 カラー30P	A5 カラーリフィル	A3 カラー他	クラウドサービス
適用規格 JIS Q 27001:2014 JIS Q 27002:2014 JIS Q 27017:2016 JIS X 9401:2016 JIP-ISMS517-1.0	適用規格 JIS Q 27001:2014 JIS Q 27002:2014 JIS Q 27017:2016 JIS X 9401:2016 JIP-ISMS517-1.0	多彩なリフィル群 規格解説ポケット版等 ・JIS Q 27017 ガイド ・CSP リスケー一覧 ・CSC リスケー一覧	多彩な補助資料 ISMS 全体マップ 管理策全体マップ 文書様式サンプル 実務演習資料 教育訓練用ツール	教本デジタル版 多彩なリフィル 多彩な補助資料 オンライン学習 オンラインサポート



## 受講申請 主催者(共催者)所定の方法でお申し込みください。

その他開催日程は ISMS Society ホームページもしくは主催者にお問い合わせください

主催者	会場	開催日程	備考
アイ・エヌ・ジーシステム	秋葉原	6月 19日開講 基礎19日 ISMS-CLS 20日-21日 実践編8月以降	アイ・エヌ・ジーシステムへのお問い合わせ/お申込 <a href="https://www.ingsystem.co.jp/isms/index.html">https://www.ingsystem.co.jp/isms/index.html</a> 
		8月 10日開講 基礎10日 ISMS-CLS 11日-12日 実践編10月以降	
企業内開催	—	8月-9月 基礎編11月	企業内での開催のため所属者のみ受講可能
企業内開催及び主催者募集しています			





## 受講者及び受講させた企業6つのメリット

### ●組織としてのメリット

1. IoT/サイバーセキュリティを視野にクラウド固有のリスクに効果的な対応が可能になる(企業価値向上)
2. クラウドサービス提供者(プロバイダー)として安心・安全なサービス提供が可能になる(顧客満足向上)
3. クラウドサービス利用者(カスタマー)として安心・安全なビジネス環境が整う(機会損失の低減)

### ●受講者(個人としての)メリット

1. マネジメントスキル向上により自らの市場価値を高めることができる(フリーランサーとしての稼ぐ力)
2. 日本規格協会グループの ISMS-CLS 審査員資格や MSQA 認定コンサルタント/講師として活動できる
3. 劇的に変化するデジタル社会において、リスクと機会に対処し明日への希望(豊かな未来)を創造する



## ISMS クラウドセキュリティ認証について(出典:ISMS-AC 適合性評価ガイド)

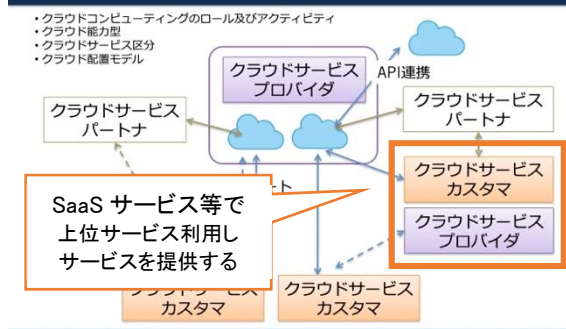
ISMS クラウドセキュリティ認証とは、JIS Q 27001 を前提として、その認証範囲内に含まれるクラウドサービスの提供もしくは利用に関して、JIS Q 27017 に規定されるクラウドサービス固有の管理策が実施されていることを認証する仕組みです。ISMS クラウドセキュリティ認証は JIS Q 27001 を前提としていることから、この認証を希望する組織は JIS Q 27017 に沿った対策の実施を要求する JIP-ISMS517-1.0 と、JIS Q 27001 の両方に適合する必要があります。ISMS-AC では、クラウドサービスに対する情報セキュリティ認証を求める声を受けて、2016年8月に、JIS Q 27017 に基づく ISMS クラウドセキュリティ認証を開始しました。

### ■認証基準

ISMS クラウドセキュリティ認証の基準は、『ISO/IEC 27017:2015 に基づく ISMS クラウドセキュリティ認証に関する要求事項 (JIP-ISMS517-1.0)』です。この認証基準のなかで、「ISO/IEC 27001 (JIS Q 27001)」への適合が求められています。

### ■ISMS クラウドセキュリティ認証のメリット

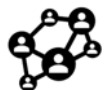
ISMS 認証に加えて、ISMS クラウドセキュリティ認証を取得することにより、組織はクラウドサービス固有のリスクについて網羅的なアセスメントを実施して必要な管理策を導入していることを、認証機関による審査・認証によって対外的に表明することができます。また、企業や一般ユーザがクラウドサービスプロバイダ、クラウドサービスカスタマに対して情報を預けることができるかどうかを評価する一つの指標となります。そのため、説明責任が求められる昨今、社会に表明する一つの手段として活用することができます。



### ■認証の対象となる組織

ISMS 認証を取得している(取得する)組織で、ISO/IEC 27017 (JIS Q 27017)に従ってクラウドサービスを提供している組織(クラウドサービスプロバイダ)・クラウドサービスを利用している組織(クラウドサービスカスタマ)の両方が対象となります。

特に上図のようにクラウドサービスを利用してサービスを提供しているプロバイダーにとって重要です。



MSQA(マネジメントシステム品質協会)ISMS Society へのご入会を推奨

MSQA はマネジメントシステムの健全な普及促進で経済社会の進歩発展に貢献します

種別	入会金	年会費	Cloud for LMS 年間利用料	特典
一般会員	10,000 円	11,760 円 (月額 980 円)	会費に含む	フォーラム参加 会員限定セミナー参加
正会員	30,000 円	36,000 円	会費に含む 専用コース利用 専用ツール提供	一般会員の特典に加え 会員価格での講師派遣 定期(更新)研修支援 力量(職能)評価支援

<https://isms-society.com>

